



TITLE:

# 經濟學認識論ノ若干問題(一)

AUTHOR(S):

左右田, 喜一郎

---

CITATION:

左右田, 喜一郎. 經濟學認識論ノ若干問題(一). 經濟論叢 1915, 1(3): 337-351

ISSUE DATE:

1915

URL:

<https://doi.org/10.14989/126900>

RIGHT:

京都帝國大學法學科大學

# 經濟論叢

第三號

第一卷

## 論說

●染料藥品生產獎勵制度

●經濟學認識論ノ若干問題(一)

●營業利益課稅新案

●貧富問題(二)

## 雜錄

●官業整理ト財政

●南洋新占領やつぶ島研究  
地研究ノ一

●享保年間ノ米價調節(二)

●收益遞減ノ法則ノ擴張

## 雜報

●獨逸ノ戰時經濟組織

●獨逸經濟ノ軍國主義化

●佛蘭西ノ農產擔保貸付法

●近時米國ニ於ケル婦人ノ職業ノ變遷

●獨身者ノ組合運動

●收穫ノ増減ト價格ノ變動

●すまゝと教授逝ク

法學博士 戸田 海市

商學士 <sup>ドクトル</sup> 左右田喜一郎

法學博士 神戸 正雄

法學博士 田島 錦治

法學博士 小川 郷太郎

助教授 山本美越乃

法學士 本庄榮治郎

法學博士 河上 肇

法學博士 神戸 正雄

法學博士 小川 郷太郎

助教授 河田 嗣郎

法學博士 河上 肇

法學博士 神戸 正雄

講師 高田 保馬

法學博士 河上 肇

# 經濟學認識論ノ若干問題 (二)

左右田 喜一郎

Ich bleibe, nunmehr halbsattig bey meinem Vorsatz mich (durch) keinen Autoritzel verleiten zu lassen in einem leichteren und beliebteren Felde Ruhm zu suchen ehe ich meinen dörrigten und harten Boden eben und zur Allgemeinen Bearbeitung frey gemacht habe."

Kant, an Marcus Herz, gegen Ende 1773.

論 說 經濟學認識論ノ若干問題(一)

第一卷 (第三號二五) 三三七

茲ニ經濟學認識論ノ若干問題ト云フハ純理經濟學上ノ先天的要素ニ付テ系統的ニ論ゼントスルノデハナイ。唯ダ經濟學ガ一個ノ經驗後天的科學ニシテ尙ホ先天的要素ヲ離レテハ説明ヲ下スコトヲ得ザル所以ヲ若干ノ方面カラ觀察シテ見タイト思フニ過ギナイ。即チ(第一)經濟學上ノ諸概念(Begriffe)ガ純然タル經驗的概念ナルニモ拘ハラズ——論理的概念ニ對スル心理的概念ノ意味ニ於ケル場合ハ勿論、純粹概念ニ對シテ一般的ニ云フ場合ニ於テモ——其ノ構成ニ於テ先天的要素ヲ缺クコトヲ許サザル理ヲ明ニシ、(第二)一個ノ經驗的科學トシテノ經濟學全般ニ於テハ、ノ先天的要素ヲ認メズシテハ經濟學ソノモノガ存在シ得ヌ理ヲ宣明シ、カクシテ概念構成ニ於テ、其歸趣ニ於テ、混沌タル目下ノ純理經濟學根本原理ノ解明ニ資スルヲ得ンカト思フノデアアル。

在來ノ學究的論理學ノ教フル所ニヨレバ一個ノ概念(I)ガ形成セラルル爲メニハ異中ノ同ヲトリ所謂「抽象」ニヨリテ諸 Merkmaleノ普遍性ヲ得更ニ之ヲ統一體ニ集成スルコトヲ要シ、カクシテ得タル普遍的觀念ガ概念ト名ケラルカんとスラモ

尙ホ空間ガ純粹概念ナルコトヲ説明スル條下ニ通常ノ概念ト認メラルモノヲ説明スルニ次ノ句ヲ以テシテ居ル。

“Nun muss man zwar einen jeden Begriff als eine Vorstellung denken, die in einer unendlichen Menge von verschiedenen möglichen Vorstellungen (als ihr gemeinschaftliches Merkmal) enthalten ist, mithin diese unter sich enthält; aber kein Begriff, als ein solcher, kann so gedacht werden, als ober eine unendliche Menge von Vorstellungen in sich enthielte. Gleichwol wird der Raum so gedacht: .....” Kant, Critik der reinen Vernunft, 2te Aufl. 1787, S. 39-40

即チBegriffヲ定ムルニ主要ナルモノトシテAllgemeinheitヲ舉グルノ常ナルコトハ苟モ論理學ノ第一頁ヲ開イタモノノ等シク認ムル處デアル、余ハ此ノ點ニ對シ多年疑問ヲ抱イテ居ル。

(1) 余ハBegriffヲ「概念」ト譯スハ不當ト思フ、サリトテ之ニ代ハルベキ新奇ノ語ヲ案出スルモ徒ラニ讀者ヲ煩ハスニ過ギスト思ヒ我國哲學者ノ用語ナソノ儘ニ踏襲スル、余ニハ概念ト云フ字ハ只Begriffヲ日本字ニ書キ替ヘタ程ノ重要以外ニ意味ハナイ、此譯語ニ特殊ノ意義ヲ付スルコトナカランヲ望ム。抑々通常ノ言葉カラ漸次學問上ノ概念ガ形成セラルル迄ノ發展經過、要件等ニツイテ或ハ普遍性(Allgemeinheit)或ハ規定性(Bestimmtheit)或ハ妥當性(Geltung)ヲ舉グル等ノ事ハ認識論ニ關スル諸書ニ説イテアルカラ茲ニハ説カヌ、嬰兒ガ父母ト他

人トヲ混同スルノ域カラ脱シテ一定ノ具象的物體及經過(Konkrete Dinge und Vorgänge)ヲ一定ノ言葉ニ結び付ケテ定義ノ代ハリニ例ヲ以テ答フル時代ヲ過ギ進ムデ純然タル學問上ノ考察ニ於テ月ノ運行ト物體ノ墜落トガ共ニ重力ナル概念ニ包括セラルルコトヲ悟ル迄ニ進ム間ニ於テ概念ノ構成ニ其ノ *gemeinschaftliche Merkmale*ノ普遍性ヲ擧グルニ判斷ノ形式ニヨルコトハ疑ヒナイ。而カモ判斷ノ賓辭タル諸普遍的表象即概念ハ其ノ求ムル概念ノ構成上抽象ヲ可能ナラシムル爲メニ夫自身ハ結極抽象以外何等カノ方法ニヨリテ先キニ得來タリシモノナラザルベカラザルコトハしぐわると\*ノ云フ通りデアル且ツ *gemeinschaftliche Merkmale*ヲ抽出スルニ要スル比較客體ノ範圍決定セラレ即チ其ノ比較スベキ客體ニ内存スル *Markmale*ガ共通ナルコト決定セラレ居ルニ非ザレバ一ノ概念モ構成スルコトヲ得ヌ。換言スレバ比較抽象ヲシテ全然前提ナキ純然タル意義ニ於テ可能ナラシムル爲メニハ吾人ニ對スルモノハリつかゝとノ所謂 *extensive und intensive Mannigfaltigkeit der Dinge* (客體ノ内延的及外延的多様)ニ外ナラズ吾人ヲシテ比較ノ可能ソレ自身ヲモ否定セシメネバ止マヌ底ノモノデアル。故ニ例ヘバ動物ノ概念ヲ造ルニハ比較

スベキ客體ガ動物ナルコト疑ナキ場合ニ非ザレバ不可能デアル。しぐわるとハ云フ „Ein Begriff (so) durch Abstraction bilden wollen, heisst also die Brille suchen, die Man auf der Nase trägt, mit Hilfe eben dieser Brille“\*ト此ノ諧謔ノ言、言ハ輕快ナリト雖モ意ヤ深刻ナリ、而カモ茲ニ紹介シタしぐわるとノ云フ所ハ更ニ深キ論理の根本矛盾ノ二ノ特別ノ場合ニ過ギナイ。余ハコノ論理ノ矛盾ソノモノニ付テ疑ヒテ抱クモノデアル。今試ミニ茲ニ「樹木」ノ概念ヲ得ベシトスル。葉アルモノアリ、葉ナキモノアリ、花アルモノアリ、花ナキモノアリ、果實アルモノアリ、ナキモノアリ、樹根深ク土ニ入ルモノアリ、入ラザルモノアリ、樹材建築ニ用キラルベキモノアリ、用キラレザルモノアリ、千態萬様ナリト雖モ日常并ニ學術上ニ於テ樹木ノ概念ヲ構成スルニ同中異ヲ去リ異中同ヲ探リ來ルニ吾等ハ殆ド何等ノ困難ヲ感ジナイ。況ンヤ樹木ノ認識ニ例ヘバ「人」ノ概念ヲ適用セントスルガ如キハ幻覺ノ如キ場合ヲ除ケバ兒童ト雖モ爲サザル所デアル、何ガ故ゾ。

之ヲ心理發生的 (psychogenetisch) ニ見レバ吾等ハ先ヅアル認識對象ニ必ズ結び付ケテ一個ノ心理的——日常的の不完全ナル——又ハ論理的——科學的——概念ヲ得ベシ

トスル之ハ事實デアアル。乍併此ノ場合ニ外的客體及經過(aussere Dinge oder Vorgänge)ハ概念ノ單純ナル『緣由』ニ過ギナイ。デ此ノ時概念ハ既ニ獨立ノ存在ヲ有セヌカ、是余ガ疑問トスル所デアアル。對象ニヨリテ概念ヲ習得スルハ只心理的經過ニ過ギヌ。概念ハ此ノ時既ニ對象ニ即シテ而カモ對象カラ獨立ニ存在ヲ保テ得ル事かんどカ。先天的形式ハ經驗ト共ニ起リ來ルモ經驗ヨリ來ルモノニ非ズト解スルト同様ノ見方ヲ許スベシト思フ。此ノ時此ノ概念ガ既ニ獨立ノ存在ヲ保テバコン、比較ノ範圍ニ入り來ル外物ヲ拉シ來リテ、比較抽象ヲ可能ナラシメ妥當ナラシムルコトシぐわると云フガ如シ。然ラバ抽象ニ依ル普遍性(Allgemeinheit durch abstraction)ハ全然無意義ニ歸スルト同時ニ普遍性ハ前定セラレテ居ル故ニ又全ク意義ヲ異ニシテ來ル。此ノ點ニ於ケル余ノ思想ヲぶらとーんノ觀念論ニ結び付ケル必要ハナイ。此ノ普遍性ニ形而上學的實在アリト考フルコトハかんと以後百年ノ今日許スベカラズ。只此ノ如キ形而上學的實在ヲ與ヘズシテ而カモ先天性(Apriorität)ヲ説クノ困難ハ、尙ホ余ノ此ノ小問題ニモ附イテ居ルハ當然デアツテ、問題ノ大小ニヨツテ問題ノ性質上ノ困難ハ左右シ得ラレナイ。余ハ今如何ナル經驗的概念ニモ、經驗ニヨリ



經<sup>ト</sup>共<sup>ニ</sup>起<sup>ル</sup>モ經驗<sup>ヨリ</sup>來<sup>ラズ</sup>之<sup>レ</sup>ヨリ獨立セル das Apriori アリト信ジツアル。  
論者ノ所謂各概念ノ要素トシテノ普遍性ハ抽象ニヨリテ純粹ナル前提ナキ經驗的過程ニヨリテ得ラルベキモノニ非ズ、口常用ナルト學術上ナルトヲ問ハズ、認識目的 (Erkenntniszweck) ニ應ジテ内容上ニ改變ヲ許スモ、論理ノ形式上ハ das Apriori ヲ意味スルモノデナケレバナラヌト余ハ信ズル。此ノ點ニ於テ注意スベキハ認識目的ニヨリ内容ノ改變ヲ許スト云フハ何ノ謂カト云フコトデアル。

論理學者ニ從ツテ先ツ概念ヲ二ニ分ケテ考ヘテ見ル。一ハ當初受ケタル印象ヲ去ル未ダ遠カラズ、龐ゲニ一個ノ觀念ヲ形成セルニ過ギズ、アル事物ヲ見テ、初メテ其ノ觀念ヲ當テ嵌ムル當否ヲ見極ムル如ク、定義ニ代ユルニ例ヲ以テスル程度ノ概念ヲ心理的概念ト云ヒ、科學的方法ニヨリ明確ナル智識ヲ表明スルモノヲ科學的概念トスルガ、前ノ場合ニ於テ「馬」ヲ以テ「牛」トセザルニ於テモ、馬又ハ牛ニ關シテ明確ナル科學的概念アルコトヲ必要トシナイ。只馬ヲ見テ牛トセズ牛ヲ見テ馬トセザルノ程度ニ於テ馬ノ概念、牛ノ概念アレバ足ル。此ノ場合ニ縱令明確ナラズ組織のナラズ批判的ナラズトモ一種ノ概念ハアル。併シ此ノ如キ不明確ナ心理的概

念ガ當初受ケタ印象其ノモノニ過ギズトセバ初メテ見タ牛以外ノ牛ハ悉ク牛ニ非ズト云ハネバナラナクナル。一牛ヲ比較シテ前ニ見タルモ牛、後ニ見タルモ牛ト云フニハ、既ニ初ニ牛ヲ見テ受ケタル印象ヲ『緣由』トシテ、一個ノ概念ガ先天的ニ構成セラレテアルノデナケレバ不可能ナルコトデアル。此ノ概念ニ係ハリテ初メテ後ノ牛ヲ牛ナリト見更ニ二牛ヲ比較シテ一層明確ナ概念ヲ構成セラルベキデアル。心理的概念構成ノ要因ヲ何處ニ尋ヌベキヤハ茲ニハ關係ハナイ。必要ナルハ此ノ如キ概念モ印象ト云フ單純ナル經驗ニヨリテ形成セラルルニハ相違ナイガ、直ニ之ヨリ形成セラルルモノニハ非ズシテ、之トハ獨立シタル構造ト存在トヲ有スルモノガ在リト見ザルベカラズト云フコト是レデアル。又此ノ如キ心理的概念ガ基礎トナツテ諸客體ガ比較計量セラレ之ガ分析抽象セラレ、更ニソノ綜合ノ結果トシテ一個ノ類概念 (Gattungsbegriff) モ出來テ來ルノデアルガ、此ノ場合モ前ト同様ニ既ニソノ類概念ノ中心觀念ガ前提セラルルコトナクシテハ、或ル一定ノ比較スベキ客體ノ範圍ヲ定ムルコトヲ得ヌ。純然タル歸納ニヨリ類概念ガ得ラルベシト信ズル一般ノ論者ハ、歸納ノ範圍ヲ定ムベキ或ルモノナクシテ、類概念

ノ論理的妥當ヲ得ベキモノナキコトヲ悟リ得ヌモノデアル。此ノ理ハ反對ニ考ヘルト最モ明白ニナル。即チ論者が歸納ニヨリテ得タリト思フ或ルーノ概念ヲトリ來リテ之ヲ檢スルトスル。其ノ場合ニ概念ハ數個ノ判斷ノ形チニ分析セラレ得ルカラソノ判斷ハ必ズ一般的、普遍的性質ノモノデナケレバナラス。從ツテ如何ニ之ヲ集積結合シテモ、其ノ概念夫レ自身ヲ構成シ得ズ、必ズ此ノ如キ判斷ヲ其ノ概念ニ附屬スルモノト見セシムル把持主體アラザルベカラザルト同時ニ、概念構成上ノ判斷ヲ一ツ一ツニトリ去ツテモ、尙ホ其處ニ殘ル何等カノ或ルモノガ其ノ概念ノ中心思想トシテ必ズ先天的ニ存在スルノデナケレバナラス。しぐわるどノ云フタ二ノ矛盾ハ、即チ一概念ニハ必ズ此ノ先天的ノ根本が存在スルコトカラ起ルニ過ギス。モシ此ノ根本ヲ意識ノ統一作用 (Einheitsfunktion des Bewusstseins) ニ歸シ、之ヲ以テ凡テノ概念的及官能的綜合 (begriffliche und sinnliche Synthese) ノ基礎トシ、之アルガ爲メニ凡ソノ內的及ビ外的現象ノ一般的結合ト繼續 (Allgemeine Verbindung; Kontinuität) トヲ可能ナラシメ、吾々ノ認識中ニハ唯ダ一ノ空間唯ダ一ノ時間唯ダ一ノ經驗アルノミナルモ、主トシテ意識ガ單一ナルニヨリ、今云フ概念ノ所謂「根本」ナルモノモ、此ノ

意識ノ單一ナルコトニヨリテ説明セラルベシトスルモノアルモ、其ハ誤マレリトハ思ハヌ。乍然茲ニ論ズルノハ寧ロ此ノ如キ意識ノ維持及統一ヨリ生ズル作用トシテ各概念ニ存在スル中心思想アリ、之ガ各屬性ノ負擔者トシテ認識セラルベシト云フコトデアル、是レ余ガ諸經驗的概念ノ先天の要素ト呼バント欲スルモノデアル。之ガ心理的概念ノ場合ニ於テハ日常一物ヲ他物ト混ズルナカラシムル等置及區別 (Gleichsetzen und unterscheiden) 以外ノ認識歸趣 (Erkenntnisziel) ハ必要デナイガ、科學的概念トナレバ單純ニ馬ヲ馬トシ牛ヲ牛トスルト云フ丈ニハ止マラズ、生物學、動物學、力學、技術學等ニ於テ夫々特有ノ認識目的ニ應ジテ其ノ概念形成セラルベキデアル。而カモ共ニ其ノ各場合ノ認識目的ニ應シテ定メラレタル觀念ハ日常用及ビ學術上ノ概念ヲ形成スルニ先天の要素トナリ、之ニ導カレテ概念構成素材ノ撰擇比較ガ可能タルニ至ル。即チ抽象ニヨル概念構成ニハ如何ニ經驗的過程ヲ經過スルトシテモ、豫メ先天のニ概念トシテ定メラレタルモノアルニ非ズンバ、其ノ概念夫自身ハ構成セラレナイ。而シテ此ノ先天の要素ハ一ニ認識ニ於ケル歸趣ニ應シテ定メラルベキデアル。

此ノ論矛盾ナルガ如ク見ユ可ケレトモ、此ノ相關關係ヲ見ズシテハ概念構成論ハ到底成立シ得ナイ。概念構成ガ分析抽象ニヨツテハ成シ遂グラレスト云フコトハべるぐそんノ説ニ思ヒ合ハシテ考ヘルト頗ル興味ガアル。

べるぐそんノ論理主義及ビ合理主義ヲ排斥シテ直覺主義ヲ唱道スル説ヲ茲ニ事新シク述ブル必要ハナイ。只從來ノ哲學ガ創造及進化ト見ルベキモノヲ "je me-anisme cinématographique de la pensée" ニヨリテ截斷シ la durée ニ關シテ何等ノ考察ヲ遂ゲヌノハ l'élan vital ヲ解スル所以ニ非ズトシテ直覺ヲ稱揚スルハ、他ニ哲學史上多ク存在スル直覺説ノ論者ト共ニ確カニ一面ノ眞理ヲ語ルモノデアル。此レ概念構成ニ於テモ亦見ラルベキ關係デアル。一概念ハ數個ノ判斷ノ集和ニヨリテ成ルモ、如何ニ完全ニ集和シテモ、到底説ク事ヲ得ザル概念ノ核心ガ終極ニ於テ殘ル。反對ニ此ノ中心思想アレバコン初メテ幾多ノ判斷ハ一概念ニ附屬スルモノトシテ集和セラルル。此ノ概念ノ中心思想、諸 Merkmale 諸判斷ヲ概念構成ノ部分トシテ結合スル核心ハ此等諸 Merkmale 諸判斷ヨリ導キ出スヲ得ヌ。活動寫眞的ニ合理的

ニ斷片的ニ屬性トセラレタル諸 Merkmale——此亦概念ナリ——ハ之ヲ或ル一ノ概念ノ Merkmale トスルニハ其ノ概念ソレ自ラガ前提セラレ確立セラレ居ルコトヲ要スル。故ニ其ノ Merkmale ノ集和結合ノミニヨリテハ概念夫レ自身ハ到底出テ來ナイ恰モべるぐそんガ用キタ有名ナル比喩、即チ巴里ヲ知ラヌ外國人ガ如何ニ明細ニ又如何ニ多クノ斷片的「スケツチ」ヲ與ヘラルルモ此ノ都ヲ親シク知レルモノノ巴里ナル言葉ニ結び付クル印象ハ到底之ヲ得ル能ハズトイフニ類スル。

余ハ此ノ概念ノ先天の要素ノ感受ニ直覺ヲ要スルヤ否ヤト云フ點ヲべるぐそんニ倣フテ又ハ彼ニ反對シテ唱道スルノ暇ヲ有セヌ。余ハ唯ダ此ノ如キ先天の要素ガ概念中ニアリテ初メテ概念ノ構成ヲ可能ナラシメ、從テ概念要素キ Merkmale トシテ存在スルヲ得ルニ至ルコトヲ明ニシタイト思フニ過ギヌ。即チ從來ノ論理學ガ教フル如ク共通ノ Merkmale ノ分析抽象ニヨリ一ノ概念ガ形成セラルトスルハ論理ノ轉倒デアル。同様ノ理由デ歸納ニヨツテ「經驗的歸納的法則」ヲ得ベシト云フハ論理ノ矛盾ヲ包含シテ居ル。經驗的歸納的法則ニヨツテ將サニ得ントシ將サニ定メントスル中心思想ハ、却ツテ先ヅ之ヲ前提トシ豫定スルコトナクシテハ、法

則素材ノ撰擇、排列及ビ之ヨリノ歸納、夫自身ヲ可能ナラシメ得ヌト信ズル。

之ヲ要スルニ一概念ノ構成ニ先天的要素ノ存在ヲ認ムルハ論理ノ當然ノ要求デアアル、其ノ先天的要素ハ其ノ概念構成ノ認識目的ニヨツテ左右セラルルモノデアアル。故ニ同ジク『人』ト云フ概念モ之ヲ倫理學ニ於テ見ルト生理學ニ於テ見ルト、經濟學ニ於テ見ルト、社會學ニ於テ見ルトハ夫々ニ異ナル。此ノ場合ニ概念構成ニ於テ先天的前提トナルベキ觀念ハ各學ノ認識歸趣ニ應シテ異ナルモノト見ザルヲ得ナイ。是ぶらとーんノ「イデア」ノ如キモノト最モ分明ニ異ナル點デアアル。形而上學的實在ノ本質ヲ定ムルヲ以テ概念構成ノ本義トシタルぶらとーんノ論ハ其ノ觀念論ヨリ來ル當然ノ歸結ナルモ、此ノ如キ形而上學的實在ノ本質ヲ概念構成ニ前定スルハ、若シ可能ナリトスルモ知的直觀 (Intellektuelle Anschauung) ノ界ニ屬スベキモノデアアル。余ハ此ノ點ニ於テ飽クマデべるぐそん流ノ直覺主義ヲ奉ゼズ反ツテ彼ガ極力非難スル論理主義ノ遵奉者デアアル。諸經驗科學ノ概念構成ニ於テハ只各學ノ認識歸趣ガ先天的要素ノ内容ヲ定ムル制約的要因タルモノデアアルト主張スル。故ニ例ヘバ倫理學上ノ『人』ト云フ概念ハ倫理行爲ヲナス人ヲ數多集メテ其ノ

中ヨリ共通ノ Merkmale ヲ抽出シ、之ヲ統一體ニ集結シテ形成スルモノデハナイ。此ノ如キ過程ハ寧ロ倫理學上ノ『人』ト云フ概念ヲ前提トシテ初メテ行ハレ得ベキモノデ其ノ前提トスベキ概念ハ倫理學上ノ認識目的ニヨリテ制約セラルベシト信ズル。此ノ意義ニ於テかんとニ從ヘバーノ道德的主體 (ein moralisches Subjekt) トハ理性ト意志トヲ有スル一切ノ存在 (,)Jedes Wesen") ナリト云フガ如シ。Jedes Wesen" ヲ指シテ倫理學ノ道德的主體ト云フハ歸納ノ結果トシテデハナイ。

茲ニ於テ概念構成ノ實際上ノ中心問題ハ、其ノ學問ノ認識目的ハ何ナリヤト云フコトニ歸スル。即チ一學ノ認識目的ガ定マリ居ルニアラザレバ其ノ學ノ概念ハ決シテ決定スルコトヲ得ナイ。ソノ學ニ特有ナル概念ナクシテハ其ノ學ハ他ノ學ト區別スル論理的立證 (Logische Begründung) ヲ得能ハナイ、或ル一學ヲ論理的ニ立證ストハ、其ノ學ガ特有ノ認識目的ヲ有スルコトヲ論理的ニ證明スルコトデアル。實際上ノ便宜如何ニヨリテハ一學ハ他學ト區別シテ存在スル論理上ノ權利ヲ有スルヲ得ヌ。或ル一ノ學問ガ文化ノ改進ト共ニ發生スルトシ而シテ之ヲ論理的體系ニ於テ立證セントセバ、其ノ學問ガ他ノ如何ナル學問ニヨツテモ未ダ嘗ツテ闡明



セラレタルコトナキ、而シテ又他ノ學問ニヨツテ闡明セラルルコトヲ得ヌ、一定ノ認識目的アルコトヲ要スル。一學問ノ興廢ハ此ノ認識目的ノ存否ニ係ル。

今我が經濟學ニ於テ諸概念ガ混沌トシテ歸趣スル處ヲ知ラザルハ、前ニ述べタ如ク如何ナル經驗的概念モ、先天的ナル且ツ其ノ學ノ認識目的ニヨツテ内容的ニ制約セラルル觀念アルヲ忘ルルヨリ來ル、否、抑モ經濟學ノ認識歸趣ガ何ナリヤノ問ヲ起コスコトスラ知ラズシテ過ギタ我ガ經濟學ガ其ノ有スル諸概念雜然トシテ歸一スル處ヲ知ラズシテ今日ニ及ンダノハ寧ロ當然デアアル。今余ガ當面ノ問題トスル所ハ此ノ二點ヲ究明スルニ在ル。經濟學認識論上ノ重要ナル問題ハ實ニ是レデアアル。(未完)